

次世代に託す医師会共同利用施設の使命

～かかりつけ医機能支援と医療・保健・介護・福祉の充実～

大宮医師会メディカルセンターの沿革と次世代への使命

大宮医師会メディカルセンター
センター長 萩原 弘一



I. 埼玉県さいたま市 大宮地区（旧大宮市）

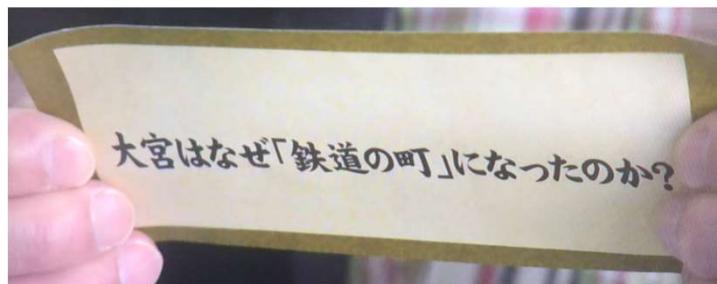


#	政令指定都市	人口
1	横浜市	3,771,961
2	大阪市	2,756,807
3	名古屋市	2,325,778
4	札幌市	1,973,000
5	福岡市	1,631,409
6	川崎市	1,540,890
7	神戸市	1,510,171
8	京都市	1,448,964
9	さいたま市	1,339,784
10	広島市	1,191,443
11	仙台市	1,099,239
12	千葉市	978,801

2022年10月1日現在

大宮医師会はさいたま市の北部
53.3万人の地域をカバー
(2023年1月1日現在)

大宮 = 大いなる宮居
= 武蔵一宮 = 氷川神社



プラタモリ (NHK 2017年7月1日放送)

<https://ameblo.jp/syanaihanbai/entry-12779128142.html>

<https://www.city.saitama.jp/006/013/005/001/p094537.html>

II. 大宮医師会の歴史

- 1947年 大宮市医師会設立
- 1953年 大宮医師会立大宮准看護学校開校
- 1965年 大宮市医師会メヂカルセンター開業
- 1972年 大宮医師会市民病院開院
大宮医師会高等看護学院開校
- 2009年 大宮医師会市民病院閉院
大宮医師会メディカルセンター開設



大宮医師会館

鉄道博物館



鉄道博物館を目指せば、
大宮医師会館は目と鼻の先！

鉄博を訪れた時は、我々のことも思い出してください。

III. 大宮医師会メディカルセンター

健診・検診業務マネジメント（検診業務課）

➤ 各種健診，市民検診



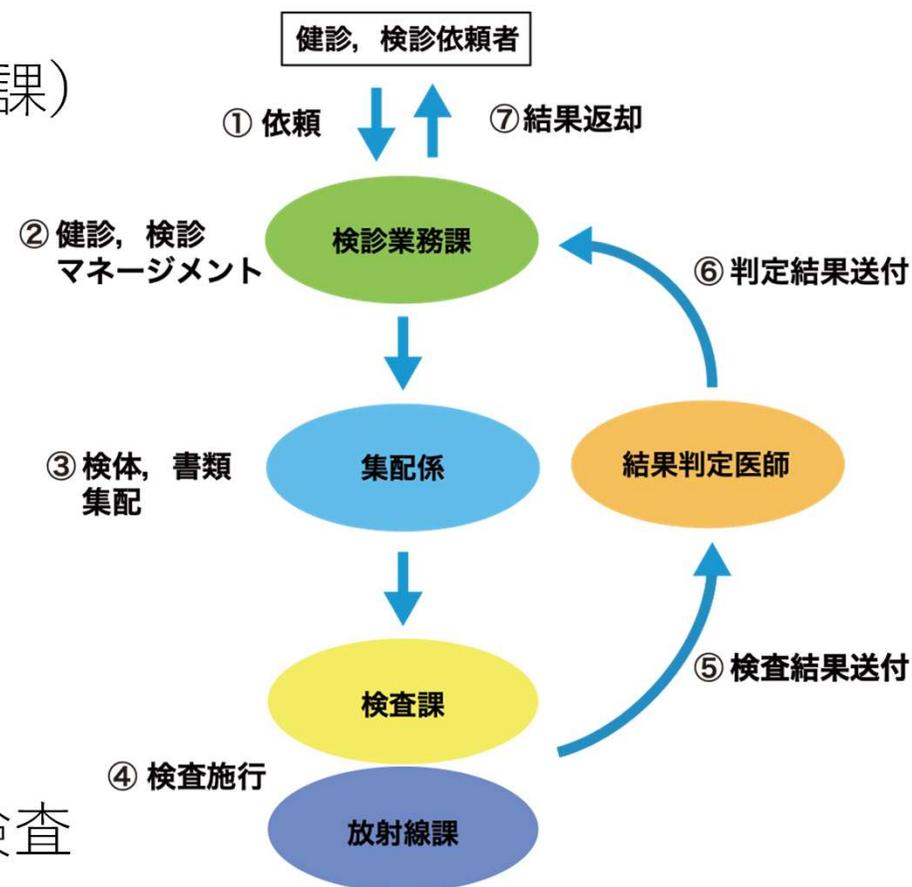
検体集配，各種書面集配（集配係）

➤ 臨床検体，市民健診，がん検診



検査施行（検査課，放射線課）

➤ 検体検査，生理機能検査，学童検診検査



医師会員，さいたま市，各種企業依頼の健診，検診，検査を行う

Ⅲ. 検査・検診業務

検査依頼件数（2009年度～2022年度）



コロナの影響で会員からの受託検査件数は微減

Ⅲ. 検査・検診業務

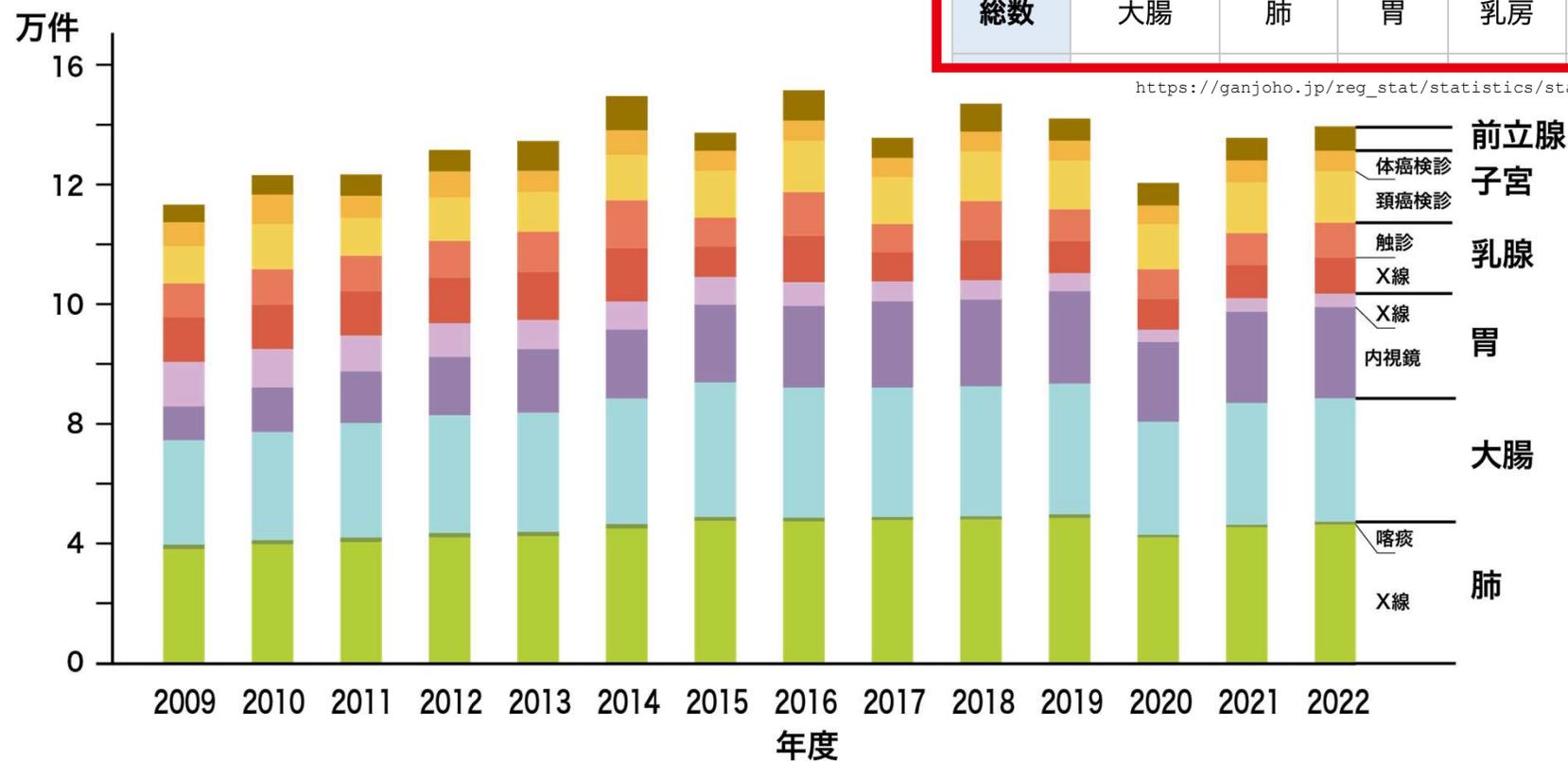
検査依頼件数（2009年度～2022年度）



会員施設職員コロナ抗体検査受託で医療システム維持に貢献，受託率上昇

Ⅲ. 検査・検診業務

検査依頼件数（2009年度～2022年度）



がん罹患数の順位（2019年）

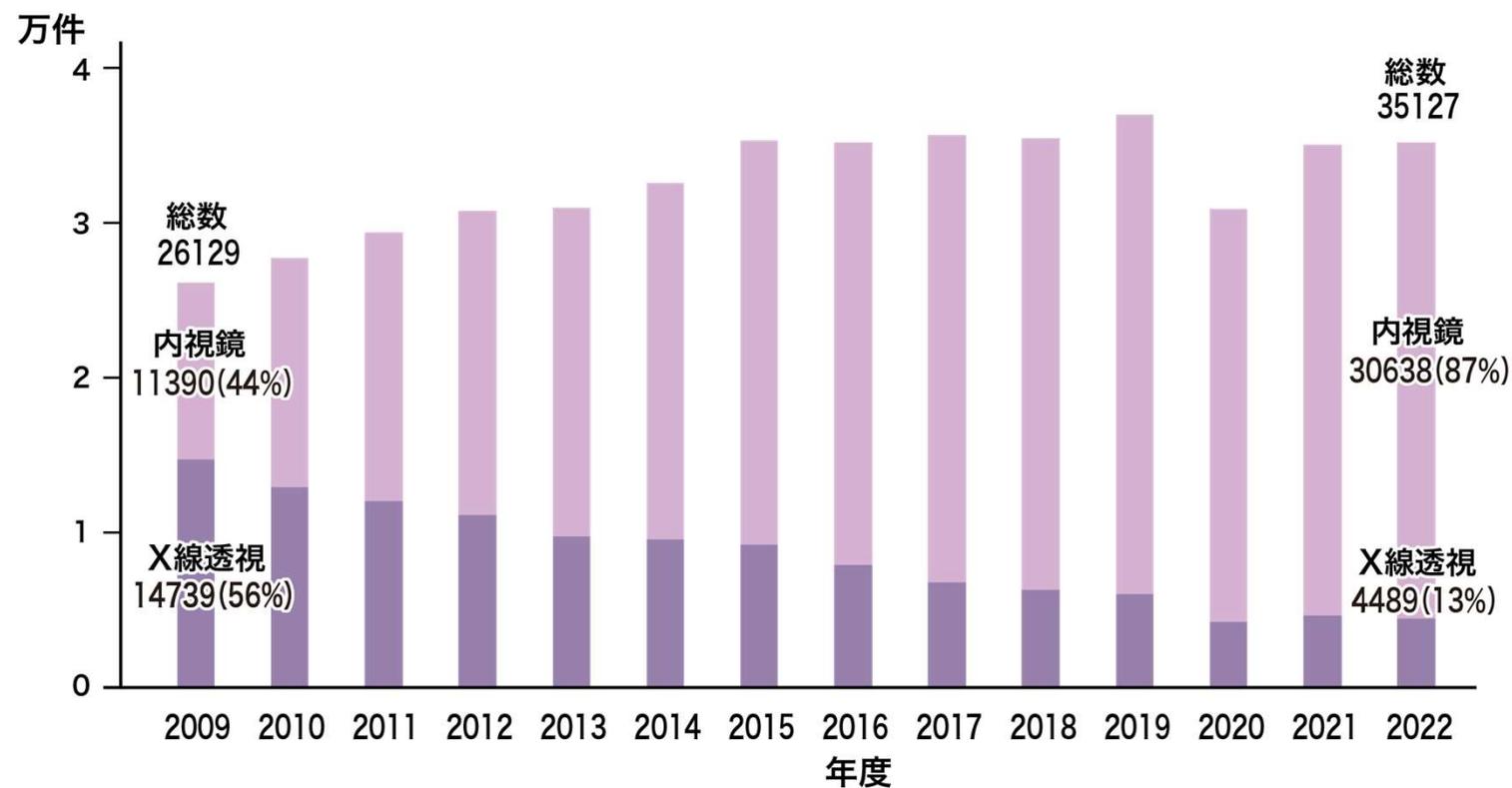
	1位	2位	3位	4位	5位
総数	大腸	肺	胃	乳房	前立腺

https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

国立がん研究センター「がん罹患数」とよく合っている

Ⅲ. 検査・検診業務

胃がん検診手法（2009年度～2022年度）



胃がん検診は内視鏡が主流となっている

IV. 医師会共同利用施設としての取り組み

1. 比較読影，二重読影の徹底（胃・肺・乳がん検診）

- ➔ 会員による読影チーム結成(胃：44名，肺：44名，乳房：4名)
一次読影(各医療機関) → 二次読影（専門委員）によるダブルチェック
- ➔ 読影技術の相互レベルアップ
上手の技術が自然と伝わる「門前の小僧」式生涯教育システム



2. デジタル化による時系列画像の相互紐付けデータベース化（全検診：2012～）

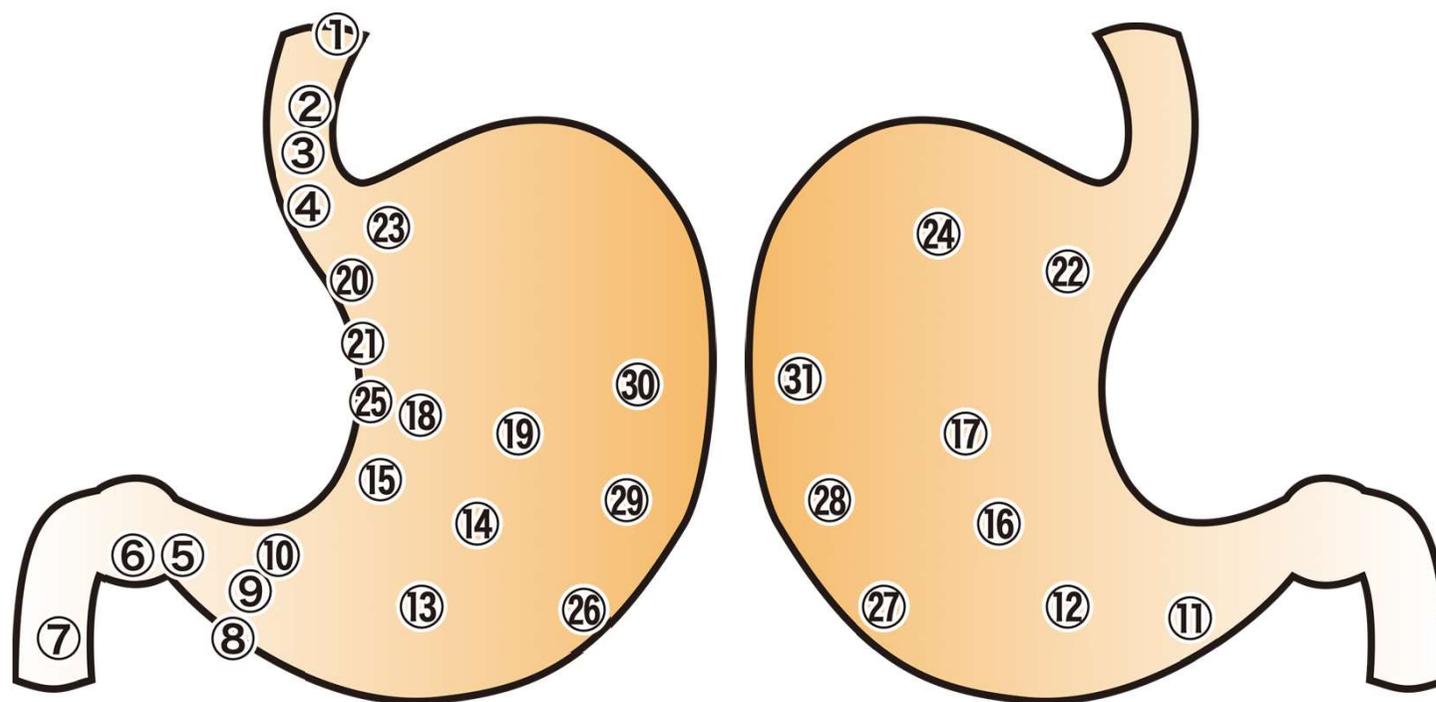
- ➔ 読影担当医の負担軽減（過去データが自動的に参照可能）
- ➔ 事務処理の大幅な軽減



3. 画像採取手順を標準化（胃がん検診）

IV. 医師会共同利用施設としての取り組み

胃がん内視鏡検診：31コマ標準撮影法の実施



①咽頭喉頭、②上部食道、③中部食道、④下部食道・食道胃接合部、⑤胃幽門輪、⑥十二指腸球部、⑦十二指腸下行部、⑧前庭部大弯、⑨前庭部前壁、⑩前庭部小弯、⑪前庭部後壁、⑫胃角後壁、⑬胃角前壁、⑭胃体下部前壁、⑮胃体下部小弯、⑯胃体下部後壁、⑰胃体中部後壁、⑱胃体中部小弯、⑲胃体中部前壁、⑳噴門前壁、㉑噴門小弯、㉒噴門後壁、㉓噴門大弯、㉔穹隆部、㉕胃角上部小弯、㉖胃体下部前壁大弯、㉗胃体下部大弯後壁、㉘胃体中部後壁大弯、㉙胃体中部大弯前壁、㉚胃体上部前壁大弯、㉛胃体上部大弯後壁

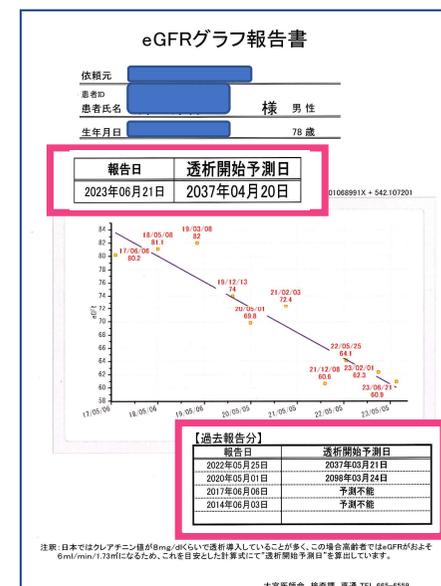
同一順番で同一部位の画像が出現。比較読影が容易になる。

31コマ標準撮影法＋2名による二次読影により高精度検査を実現

IV. 医師会共同利用施設としての取り組み

4. 蓄積された過去データを用いた加工データ提供サービス（例：eGFR）

- ➔ 報告書へのeGFR掲載（2011年～）
- ➔ 対象患者過去3~10回のeGFR値の推移をグラフで報告
推定透析開始予測日の報告



NHK

▼熊本市

熊本市は2009年からいち早く慢性腎臓病対策を実施。健康診断などで腎機能を調べるときeGFRを出すようにしています。eGFRや尿検査の結果が悪ければ、かかりつけ医が腎臓の専門医へ紹介する仕組みを作り新規透析患者増加を抑えているのです。

区役所保健こども課 市 腎臓づくり推進課

専門医への紹介基準

eGFR値 (ml/min/1.73m²) による紹介基準

- eGFR45未満(40歳未満では、60未満)
- 3カ月以内に、30%以上のeGFR
- 検尿の場合、尿蛋白1+以上

尿蛋白による紹介基準

- 尿生化学検査の場合、尿蛋白/尿Cr (1日量尿は、蛋白尿0.5g/日以上)
- 糖尿病がある場合又は血尿がある (血尿のみの場合、泌尿器科紹介または経過)

*糖尿病がある場合には、眼科受診の有無の確認および毎回の尿検査(eGFR値は、クレアチニン値を必要とします)

新規透析患者数

全国 (左) 熊本市 (右)

2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020年

明日が変わるトリセツショー（2023年7月13日放送）

IV. 医師会共同利用施設としての取り組み

5. 診療情報デジタル化の推進, 補助

➔ 電子カルテ連携システムERISの構築

電子媒体による検査結果報告 (2012年)

「ERIS」への結果取込インターフェース構築

➔ 電子カルテ18メーカー, 電子カルテ連携30施設へ成長

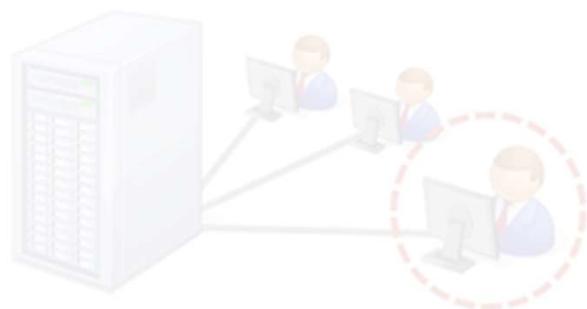
現在お使いの
検査システム

ERIS結果フォーマットにて出力
(検査システム側にて開発、構築)



医療機関別
セキュリティ機能実装

主要な電子カルテに対応 (2018年7月現在約37種)
順次、対応機種を追加予定



ご利用中のパソコンのうちの1台にイ
ンストールだけで利用可能

- 変換した検査結果データは、USB等に保存して各医療機関へお届けできます。
- ERISが対応済みの電子カルテを利用している医療機関であれば、すぐに検査結果配信サービスを提供できます。

IV. 医師会共同利用施設としての取り組み

6. 会員への情報提供, サポート

- ➔ 住民健診補助
- ➔ 特定健診, がん検診の検診OCR取込み, 結果報告
- ➔ 登録眼科医による眼底検査への橋渡し
- ➔ 検査セミナー開催, 各種学会報告
- ➔ 検査課だより発行 (月刊)
- ➔ 「検査結果に与える要因」小冊子発行 (日常の医療補助目的)
など, 多岐にわたる.

検査課だより



「検査結果に与える要因」
小冊子



公的役割を期待される「医師会共同利用施設」として機能するため、公的価値の高い項目を重点的に提供、サポートしてきた。

IV. 収益向上へ、そして次世代へ

メディカルセンターは医師会会員の情報交差点

情報交差点としての機能強化が収益向上、次世代への貢献につながる

会員相互の情報発信、情報受信の補助

- ➔ 会員施設訪問による各施設ニーズ把握
- ➔ 会員施設からの情報を生かした健診・検診機能強化と受診者数増加戦略

個人情報をも強固に保護したネットワーク構築によるデジタルハブ機能増強

- 新世代のネットワークに対応した新たな情報システム課の立ち上げ
- WEB予約システムの構築と会員への提供
- 2017年医療法改正に伴う標準作業書（SOP）作成補助
- 臨床検査システム閲覧システムと医学情報ディスカッションルーム新設

高度化するインターネット機能への迅速な対応を目指す

IV. 収益向上へ、そして次世代へ

受診者の利便性向上，事務効率向上のための生成AI利用

さいたま市では多種多様な出身国，生活背景を有する人々が働いている

➔ 日本語以外の言語背景を有する被験者に対する健診・検診

日本語

英語

4. 完成

1. ChatGPTによる他言語への翻訳

2. Google翻訳による日本語への返し翻訳

3. 比較し同じ意味の日本語ならOK

複数の翻訳システムを組み合わせて翻訳の妥当性をチェック

IV. 収益向上へ，そして次世代へ

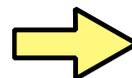
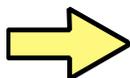
受診者の利便性向上，事務効率向上のための生成AI利用

記載項目抜けがあるかなどの簡易チェック

大宮医師会メディカルセンター

医療安全管理指針 (草案)

i	用語の定義	4
ii	用途の定義	4
1	本センター	4
2	医療事故	4
3	職員	4
4	医療安全推進者	4
5	事故の定義および概念	4
(1)	インシデント（ヒヤリハット）	4
(2)	アクシデント（医療有害事象，医療事故）	4
(3)	医療過誤	4
6	医療安全管理委員会	5
7	リスクマネージャー委員会	5
8	医療事故対策委員会	5
iii	組織および体制	6
1	医療安全管理委員会	6
(1)	構成	6
(2)	任務	6
(3)	医療安全管理委員会の開催および活動の記録	6
2	医療事故対策委員会	6
(1)	構成	6
(2)	任務	7
(3)	医療事故対策委員会の開催および活動の記録	7
1	インシデント・アクシデント事例の報告及び評価分析	8
(1)	インシデント・アクシデント事例の報告	8



医療安全管理指針を作る
として，どんな項目
が必要なのだろう

HA

健診センターの医療安全管理指針に必要な項目は何ですか



健診センターは、疾病の早期発見や予防を目的とした診療を提供する施設であり、通常の病院や診療所とは異なる特有のニーズやリスクがあります。そのため、健診センターの医療安全管理指針に必要な項目も、独自の要素を持つ可能性があります。

以下は、健診センターの医療安全管理指針に考慮すべき項目の例です：

1. 受診者の同定:
 - 受診者を正確に識別するための手順やシステム。
2. 予約と受付の管理:
 - 重複予約や受診者の混雑を避けるための管理システム。
3. 受診者の情報提供と説明:
 - 健診の流れや内容、意義に関する十分な情報提供。
 - 特定の検査や診療に関するリスクや注意点の説明。
4. 検査の前の確認手順:
 - 検査項目や方法、使用する機器の確認

個人情報，機密情報に留意しながら生成AIを施設のために利用していく

V. 今後の方向性

医師会共同利用施設には公的役割が期待される。特に行政との連携は重要である。さまざまな公的住民サービス機能の向上を継続する。

医師会共同利用施設は医師会内の情報交差点でもある。会員のニーズを集め、会員の共同利用のため、また、会員個々の診療を手助けする機能を充実させる。

インターネットサービスの発展は目覚ましく、業務への影響は予見し難い部分が多い。情報流出に細心の注意を払いながら、最新技術を使用して経験を積み、業務を改善する。得られた経験を会員に積極的に開示し、会員の業務改善に貢献する。

ご清聴ありがとうございました

Omiya
Medical
Association

